



～あんず通信では、感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

【感染症だより】

～新型コロナウイルスについて～

東京都ではリバウンド警戒期間が5月22日で終了となり、23日以降は基本的な感染防止対策となりました。感染状況は5月19日以降PCR陽性者数の実行再生産数は1を切り、第6波はだいぶ落ち着いています。

さて、新型コロナウイルス発生から早2年半が過ぎてデータがだいぶ集まりました。新型コロナウイルスとはどんなものだったのか、名古屋大学名誉教授の小島勢二先生が詳しく解説してくださっていますので一部紹介します。

まず、他のウイルスと比べてみると、我が国における10歳未満の小児重症ウイルス感染症の年間発症数は、季節性インフルエンザやRSウイルスのほうが何倍も重症度が高いことがわかりました（表A）。米国と比較しても、日本では20歳未満の死亡者数は圧倒的に少ないことがわかりました（表B）。新型コロナウイルスは、インフルエンザやRSウイルスと比較して重症化が少ないことがわかりました。

表A：日本国内の10歳未満小児の重症ウイルス感染症年間発症数

	インフルエンザ	RSウイルス	新型コロナ
重症	100～150	7000～8000	10未満
死亡	30～50	20～30	3未満

表B：20歳未満の新型コロナ感染による日米死亡者数の比較

	小児人口	コロナ感染累積死亡者数	100万人あたりの死亡者数
日本	2309万人	10人	0.43人
米国	7527万人	1,118人	148.5人

～新型コロナワクチン副反応について～

厚労省から6月10日に発表されたワクチン副反応報告では、因果関係不明ですが累計1743人（前回から32人増）死亡されていました。このうち、3回目接種後に亡くなられた方は225人でした。また、重篤な副反応は7275人で、このうち5～11歳は12人でした。新型コロナウイルス感染によって重症化することが少ない小児では、ワクチンの副反応による重症化数と比較すると、ほとんど差がないということがわかります。このデータは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

文責：清水マリ子

表1：5月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎(77ノ16含む)	131
2	溶連菌	76
3	突発性発疹	7
4	新型コロナウイルス	6
5	咽頭アデノウイルス	5
6	水ぼうそう	3
6	伝染性膿痂疹(とびひ)	3

あんず通信バックパ-は
クリニックホームページからご覧になれ
ます。 <https://ssn-clinic.net/>

～あんずからのお知らせとお願い～

- ★**空き状況**を Web で確認出来るようになっていきます。しみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。ご予約は必ずお電話でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話で構いませんので当日8：30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。

★病児保育室あんずでの新型コロナ対策★

病児保育室内では、マスク、手洗い、消毒、換気など定期的に行っています。また、出来る限り隔離室を利用し、子ども同士が同じ部屋にならないよう配慮しております。ご予約の際には、感染予防のために新型コロナウイルス感染者との接触歴や流行地に行っていないか等お聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

